

「はいぬ島共生意識・要求アンケート調査」の状況をお知らせする

やいま NEWS

2018.12.3

No.13

竹富町キャラクター
「ピカリヤー」だよ！



「第2次調査」は11月21日に終了 12月5日から「第3次調査」開始！ 西表島西部でも「アンケート記入会」開催へ

西表島西部は、人口約1,500人で竹富町最大の集落ですが、観光業を営む移住の方も多く、地域の公民館長さんも「福祉のアンケートの必要性がわからない」「記入会をしても誰も来ないよ」などの意見があって、どんな調査をするか最後まで迷っていたところでした。

地域医療・福祉研究所では、それぞれの地域用の説明資料を作り、地区別の館長さんに面談をお願いしました。11月18日～20日で4地区の面談ができ、12月に全地区で記入会が出来ることになりました。

最初は、ほとんどの館長さん（地域のまとめ役）から、「離島での福祉の充実は無理だと思う」「医療や介護がないのは島の運命だとみんな思っている」などの声が共通して出てきましたが、アンケートの目的や意義を説明し、「まず、地域の福祉に対する本音を聞いてみましょう」「みんなの声を集めて住み続けられる島にしましょう」と呼びかけると、「大事なことだと思う」「せっかくの機会だからやってみよう」と記入会の設定や呼びかけに協力してくださいました。



西表島西部の上原港



上原地区公民館長の西里さん（右）とアンケート調査の打ち合わせを実施 12月13日に記入会開催へ

現在、竹富町 27 地区のうち 21 地区で調査終了！

11月の第2次調査では、竹富島（11/6～7）西表島（11/8～11）波照間島（11/12～15）、小浜島（12/16～17）、西表島（11/17～21）の調査活動を行いました。この調査は、竹富町を27の集落に区分し、それぞれの集落で集団記入会や訪問記入を行っています。今回でその内の21集落の調査を終えました。

アンケート対象者は、名簿上は2,500人でしたが、実際に生活している人は2,000人程度だと思われます。回収率は、7割を目指していますが、高齢の方の聞き取りの困難さや若い世代の方が仕事の関係で記入が難しい人も多く、苦戦しています。

いろいろな意見を伺いながら、離島での福祉のあり方でいくつかの検討課題が見えてきました。島ごとに暮らしや仕事の条件も住民の要求も大きく違います。これから東北福祉大学の佐藤英仁先生をリーダーにアンケートの集計を行い、竹富町の島ごとの意識と要求の分析をすすめたいと思います。



高齢者から聞き取りをする調査員

